

財団法人がんとの子供を守る会
2010年度事業報告書

2010年4月1日～2011年3月31日

CCA J ANNUAL REPORT

Apr.01,2010～ Mar.31,2011



CCA J

財団法人 がんの子供を守る会

Children's Cancer Association of Japan

CONTENTS

	理事長あいさつ	1
	会の歴史	2
	組織概要	4
	収入と支出の動向	6
	収支決算報告	8
	2010年度の事業概況	
	① 研究助成事業	14
	② 療養援助事業	18
	③ 相談事業及び関連事業	20
	④ ゴールドリボン推進活動	26
	⑤ ボランティアコーディネート・ボランティア研修会	28
	⑥ 総合支援施設の運営事業	29
	⑦ 「この子のためにできること 緩和ケアのガイドライン」の作成、配布	31
	⑧ 支部活動	32
	⑨ 小児がん児童・家族への慰問活動事業	34
	⑩ 小児がんの子どもたちの絵画展開催	36
	⑪ ソーシャルワーカーの研修事業	37
	⑫ その他の事業	37
	⑬ 広報・募金活動	38
	庶務事項	40

理事長あいさつ

財団法人がんと子供を守る会は、43年前、小児がんで愛児を奪われた親たちが、自分たちと同じ苦しみを繰り返すことのない世の中を作りたいという願いのもとに、各方面の理解と協力を得て、1968年に設立された財団法人であります。何よりも、子どもにがんがあるという



ことを周知せしめるとともに、小児がんをめぐる困難や悩みに対する専門のソーシャルワーカーによる相談事業、小児がん治療研究を助成する事業、経済的困難を抱える小児がん患児家族に対する療養援助事業、更には、慢性疾患児の家族のための宿泊施設の運営、同じ疾患児をもった同士や子どもを亡くした家族同士の交流会の開催等々、幅広い事業を行っております。また、昨今は、小児がんを患った子どもたちが、自立するための援助も重要なテーマになってきております。当会といたしましては、多くの方々の援助を得て、これらの新しいニーズにも応えるよう、時宜を得た各種事業の充実に努めて参る所存であります。

理事長 垣水 孝一



会の歴史

1962	設立趣意書作成
1966	NHKカメラリポートで紹介
1967	「がんの子供を助ける親の会」準備会 新薬（メソトレキセート、ビンクリスチン、アクチノマイシンD）使用について陳情
1968	2.25 「親の会」設立総会 10.31 「財団法人 がんの子供を守る会」として設立許可 11.18 治療研究委員会発足 12.27 緊急医療費援助開始、第1号患者2名に援助金
1969	小児がん全国登録開始
1970	関西支部設立総会 小児がん公費負担について厚生大臣に陳情
1971	小児がん治療費の公費負担が実現
1972	九州支部設立総会 北海道支部設立総会 療養費援助を一般と特別に区分し援助開始。特別療養費審査会発足
1973	映画企画委員会発足 専任ソーシャルワーカー設置
1974	48年度小児がん映画完成公開 静岡支部設立総会 全国登録委員会発足
1975	愛知支部設立総会 49年度小児がん映画完成公開 埼玉支部設立総会 パンフレット「こどものがん」刊行
1976	特定公益増進法人の認定
1978	当会に嘱託医を設置 創立10周年記念講演と映画の会
1979	長野支部設立総会 創立10周年記念・国際児童年記念小児がん国際シンポジウム
1981	新潟支部設立総会
1984	日本小児がん研究会発足
1985	第1回日本小児がん研究会（東京）（平成3年以降「日本小児がん学会」）
1986	竹中相談役・顧問に藍綬褒章
1989	創立20周年記念・第2回小児がん国際シンポジウム
1991	小冊子「がんとたたかう子とともに」刊行 宮城支部設立総会

1993	愛媛支部設立総会 小児がん経験者の会「フェロー・トゥモロー (F.T)」結成
1994	小冊子「子どものがん」、疾病別リーフレット刊行
1995	宿泊施設「あかつきハウス」開設 岡山支部設立総会
1996	東京支部HOPE設立総会 学習ボランティア研修会開始（モデル事業）
1997	国際小児がん親の会連盟（ICCCPO）加入
1998	創立30周年記念 第30回SIOP国際小児がん学会親の会会議
1999	九州支部、北・西・南の3支部に分割 清瀬小児病院の敷地内にある「たけのこハウス」、中央区明石町にある「あかしハウス」を東京都衛生局より委託（2002年度まで受託）
2000	「小児がん患児とその家族の支援に関するガイドライン」刊行 岩田理事長に藍綬褒章
2001	「アフラックペアレンツハウス亀戸」が完成、事務所移転
2002	「がんの子どもへの教育支援に関するガイドライン」刊行 愛知支部が東海支部となる 広島支部設立総会 「病気の子どもの気持ち～小児がん経験者のアンケートから～」刊行
2003	九州南支部が熊本支部となる 鹿児島支部設立総会 第1回小児がん経験者の会リーダー会議 埼玉支部と東京支部HOPEが合併 関東支部となる
2004	福井支部設立総会 香川支部設立総会 沖縄支部設立総会 「アフラックペアレンツハウス浅草橋」が完成、亀戸より事務所移転
2006	小児がん経験者の支援と社会への啓発を目的としたゴールドリボン基金を設立 「小児がん経験者のためのガイドライン～よりよい生活をめざして～」刊行
2007	ゴールドリボンウォーキング2007開催（東京） 富山支部設立総会
2008	創立40周年記念事業 がんの子どもと家族を支援する公開シンポジウム（千葉） 第1回小児がん経験者自立支援助成金
2009	「アフラックペアレンツハウス大阪」が完成 高知支部設立総会
2010	「この子のためにできること 緩和ケアのガイドライン」刊行 福島支部設立総会



組織概要

名称

財団法人がんと子供を守る会

設立

1968年10月31日

主な事業内容

1. 小児がん治療に関する研究助成事業
2. 小児がん患児家族のための療養援助事業
3. ソーシャルワーカー、医師による相談事業
4. 総合支援施設「アフラックペアレンツハウス」、宿泊施設の運営
5. 小児がんに関する広報・啓発活動
6. 地域活動

代表者

理事長 垣水 孝一

主たる事務所

住所：〒111-0053 東京都台東区浅草橋1-3-12
TEL：03-5825-6311(代表) FAX：03-5825-6316

従たる事務所

亀戸 住所：〒136-0071 東京都江東区亀戸6-24-4
TEL：03-3638-6551(代表) FAX：03-3638-6553
大阪 住所：〒541-0057 大阪府大阪市中央区北久宝寺町2-3-1
TEL：06-6263-1333(代表) FAX：06-6263-2229

職員数

17名 (2011年3月31日現在)

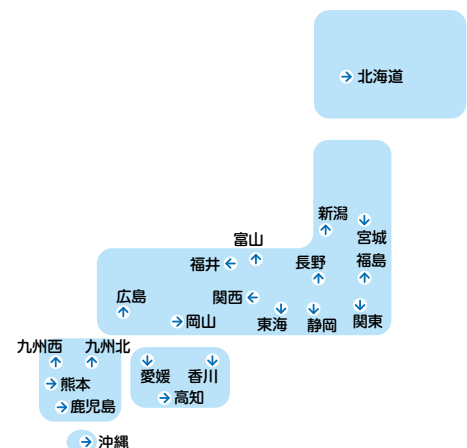
会員数

普通会员 2,453名
賛助会員 577(法人45、個人532)名 (2011年3月31日現在)

支部

当会には全国に21の支部があります。
(2011年3月31日現在)

各地域の会員ボランティアにより組織され、地域の医療関係者等の協力を得ながら、各地のニーズにあわせた相談会や交流会などを開催し、患児家族と医療関係者のコミュニケーションを深めるとともに、患児家族のよりよい療養生活の実現を目指して活動しています。



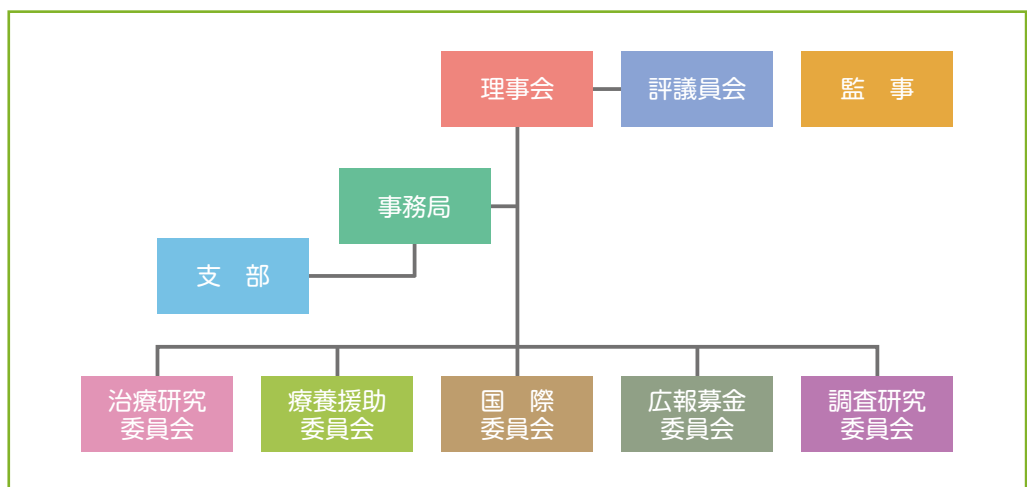
設立趣旨

小児がんで子どもを亡くした親たちによって、小児がんが治る病気になってほしい、また小児がんの子どもを持つ親を支援しようという趣旨のもとに設立されました。

2010年度事業目標

1. すべての患児がより望ましい医療などを受けられるよう、情報提供等広報活動の推進
2. 患児家族への支援活動の充実
3. 専門医療機関の受療に必要な宿泊施設の運営
4. ターミナルケアの充実
5. 小児がん経験者及び家族周辺対策の推進
6. 患児を亡くした家族への支援活動の充実
7. 日本小児がん学会への支援及び協力、治療研究助成の推進

組 織 図



役員名簿

理事長

垣水 孝一 財団法人印刷朝陽会 理事長

副理事長

黒田 英三 元福井工業大学 教養部教授
 山下 公輔 PwC アドバイザリー (株) シニアアドバイザー
 細谷 亮太 聖路加国際病院 副院長

理事

土手 多喜子 元実践女子学園 教諭
 橋都 浩平 東京西徳洲会病院 顧問
 近藤 博子 元当会ソーシャルワーカー
 松井 秀文 NPO法人 ゴールドリボン・ネットワーク 理事長
 河 敬世 大阪府立母子保健総合医療センター 顧問
 小俣 智子 武蔵野大学現代社会学部福祉学科専任講師
 張 光陽 当会九州北支部幹事
 深澤 重幸 コトブキシーティング株式会社 会長
 後藤 英司 元当会常務理事・事務局長
 中村 信夫 現当会事務局長

監事

高橋 和子 当会九州北支部代表幹事

評議員

三川 勝夫 三川会計事務所
 平野 朋美 埼玉県立小児医療センター ソーシャルワーカー
 西田 知佳子 聖路加国際病院 ソーシャルワーカー
 十亀 祥晃 当会静岡支部代表幹事
 鈴木 中人 当会東海支部代表幹事
 加藤 仁義 当会関西支部代表幹事
 岡 敏明 札幌徳洲会病院 小児科
 幸島 静枝 当会会員
 押野 カズミ 当会関東支部代表幹事
 荒井 順子 当会会員
 平澤 一郎 小児がん経験者
 稲田 浩子 久留米大学病院小児科
 池田 春子 当会会員
 中村 美智子 小児がん経験者

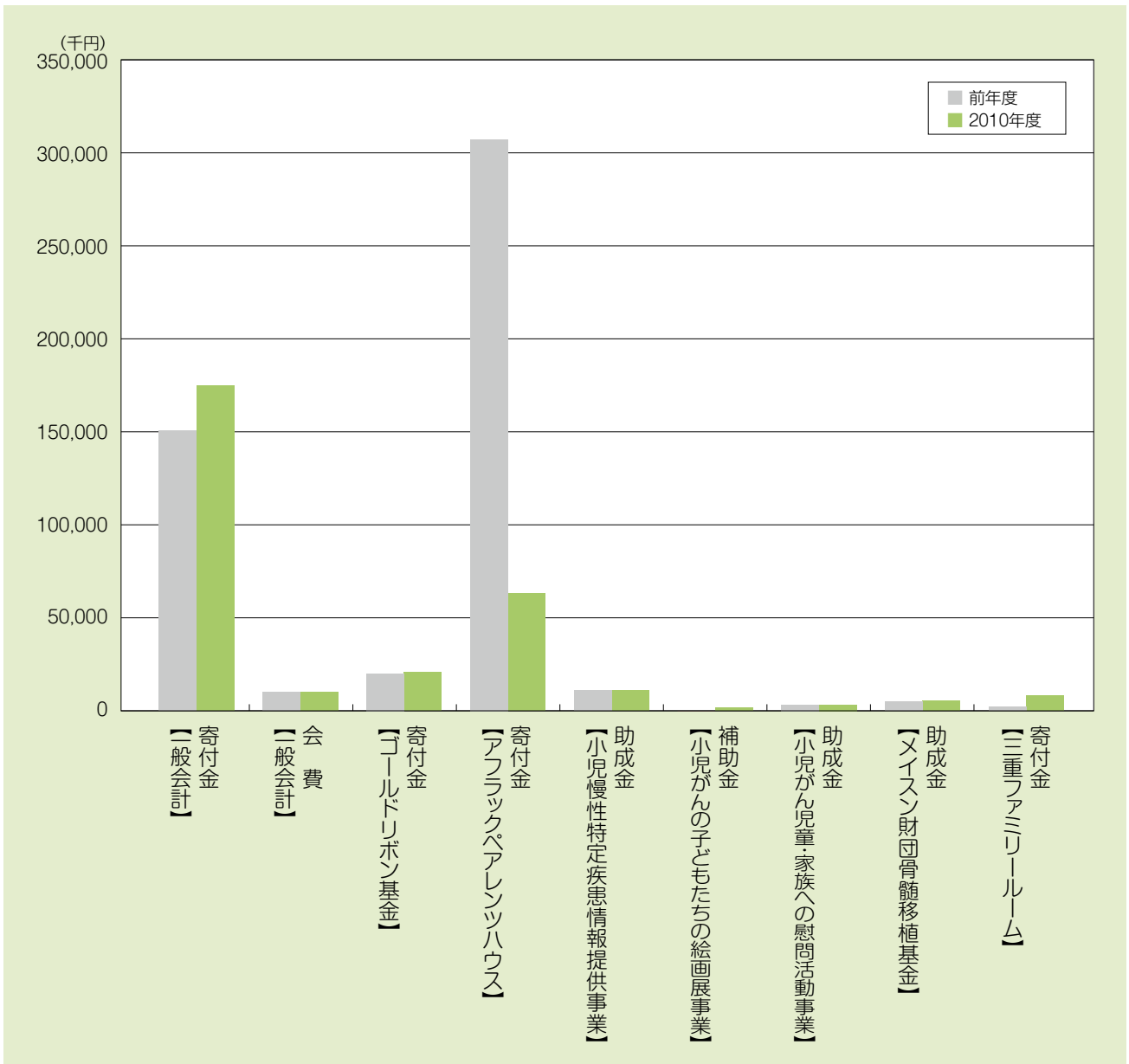


収入と支出の動向

代表的な収入

(単位：円)

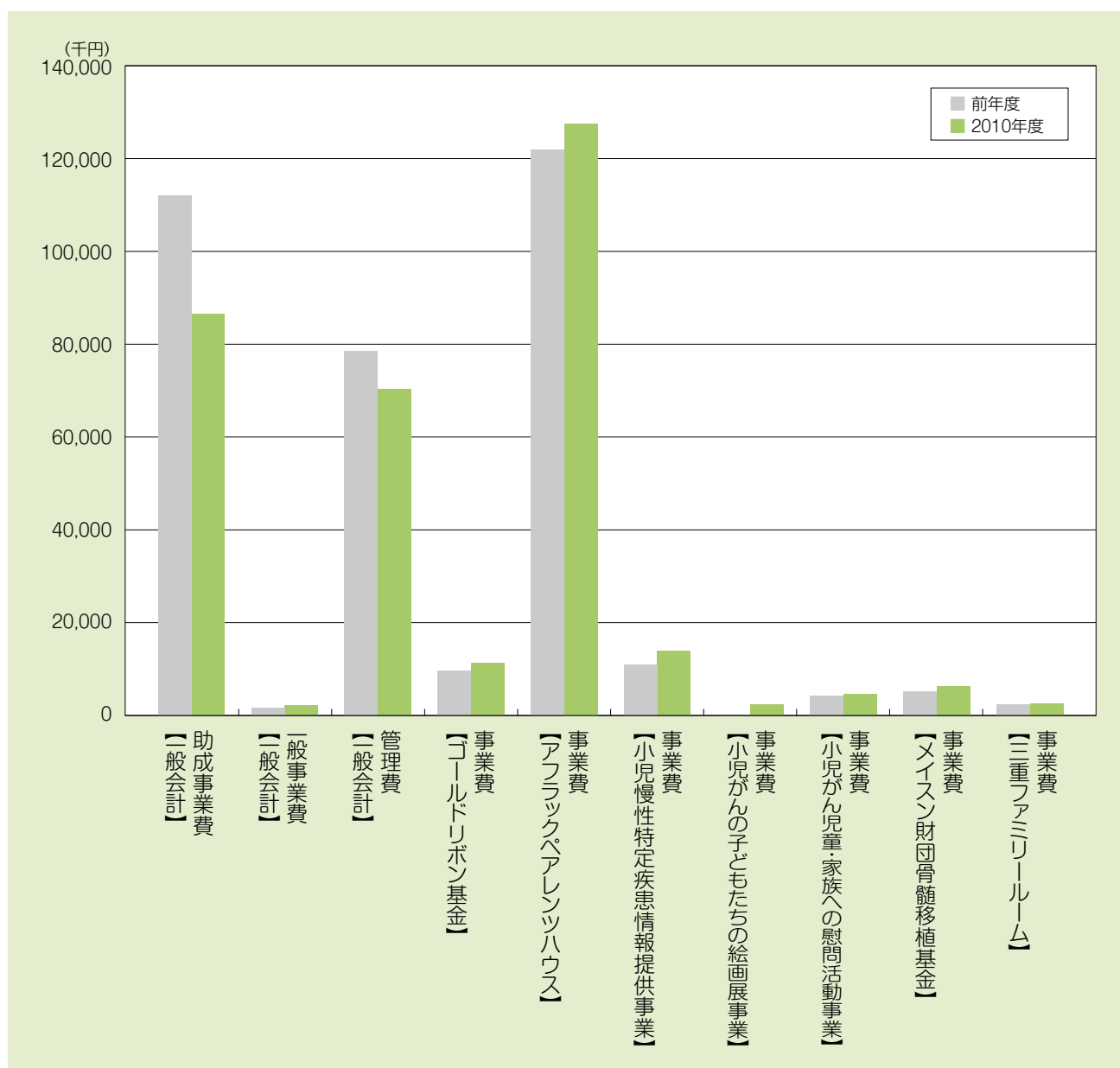
	2010年度	前年度
寄付金【一般会計】	175,343,077	151,080,320
会費【一般会計】	10,078,500	10,084,685
寄付金【ゴールドリボン基金】	20,958,005	20,155,434
寄付金【アフラックペアレンツハウス】	63,285,013	308,197,315
助成金【小児慢性特定疾患情報提供事業】	10,931,000	10,928,000
補助金【小児がんの子どもたちの絵画展事業】	1,509,200	—
助成金【小児がん児童・家族への慰問活動事業】	3,300,000	3,300,000
助成金【メイスン財団骨髄移植基金】	5,500,000	5,000,000
寄付金【三重ファミリールーム】	8,089,098	1,991,085



代表的な支出

(単位：円)

	2010年度	前年度
助成事業費【一般会計】	86,710,699	112,348,839
一般事業費【一般会計】	2,228,514	1,618,204
管理費【一般会計】	70,538,363	78,808,348
事業費【ゴールドリボン基金】	11,319,445	9,677,741
事業費【アフラックペアレンツハウス】	127,938,043	122,238,708
事業費【小児慢性特定疾患情報提供事業】	13,931,000	10,928,000
事業費【小児がんの子どもたちの絵画展事業】	2,367,361	—
事業費【小児がん児童・家族への慰問活動事業】	4,604,750	4,146,938
事業費【メイスン財団骨髄移植基金】	6,300,000	5,130,000
事業費【三重ファミリールーム】	2,537,726	2,315,775





収支決算報告

一般会計

I 事業活動収支の部

科目	決算額(円)
1. 事業活動収入	
財産運用収入	4,345,459
寄付金収入	175,343,077
特定寄付金	5,884,760
一般寄付金	143,419,219
指定寄付金	26,039,098
会費収入	10,078,500
普通会費	5,073,500
賛助会費	5,005,000
助成金収入	5,200,000
学会業務助成金収入	3,400,000
調査研究委託収入	1,800,000
負担金収入	480,200
宿泊負担金収入	480,200
雑収入	42,889
繰入金収入	4,369,000
事業活動収入計	199,859,125
2. 事業活動支出	
助成事業費	86,710,699
療養助成費	25,208,194
療養助成費	21,939,344
ボランティア助成費	706,318
宿泊施設運営費	2,562,532
相談助成費	12,581,781
相談助成費	464,101
支部活動費	8,829,312
ワーカー活動費	3,288,368
研究助成費	48,920,724
治療研究助成費	22,179,724
セミナー助成費	16,513,804
調査研究助成費	7,784,487
調査研究委託費	2,442,709
一般事業費	2,228,514
広報費	2,063,135
調査費	165,379
管理費	70,538,363
人件費	57,572,811
会議費	1,929,040
需要費	11,036,512
繰入金支出	6,162,340
事業活動支出計	165,639,916
事業活動収支差額	34,219,209

II 投資活動収支の部

科目	決算額(円)
1. 投資活動収入	
特定預金取崩収入	2,221,600
投資活動収入計	2,221,600
2. 投資活動支出	
特定預金支出	4,951,400
投資活動支出計	4,951,400
投資活動収支差額	△ 2,729,800

III 財務活動収支の部

科目	決算額(円)
1. 財務活動収入	
財務活動収入計	0
2. 財務活動支出	
財務活動支出計	0
財務活動収支差額	0

当期収支差額	31,489,409
前期繰越収支差額	0
次期繰越収支差額	31,489,409



特別会計 アフラックペアレンツハウス

I 事業活動収支の部

科目	決算額(円)
1. 事業活動収入	
財産運用収入	21,702
寄付金収入	63,285,013
負担金収入	7,390,800
施設利用料収入	6,646,000
リネン負担金収入	744,800
雑収入	10,500
事業活動収入計	70,708,015
2. 事業活動支出	
事業費	75,006,008
人件費	72,423,533
法定福利費	2,791,027
業務委託費	35,949,060
給与	33,647,233
福利厚生費	36,213
運営費	2,582,475
消耗品費	1,213,922
通信運搬費	5,950
図書資料費	296,468
保健衛生費	399,213
リネン賃借費	647,403
雑費	17,449
旅費交通費	2,070
管理費	52,932,035
印刷製本費	1,477,637
光熱水費	11,754,662
衛生管理費	3,552,838
消耗品費	172,427
通信運搬費	3,241,467
保守料	5,407,776
租税公課	10,103,400
災害保険料	163,081
保安料	596,400
消耗什器備品費	2,001,720
会議費	31,340
植栽管理費	1,408,050
修繕費	3,336,588
設備管理費	8,049,657
図書資料費	12,748
雑費	727,804
旅費交通費	894,440
事業活動支出計	127,938,043
事業活動収支差額	△ 57,230,028

II 投資活動収支の部

科目	決算額(円)
1. 投資活動収入	
特定預金取崩収入	53,000,000
投資活動収入計	53,000,000
2. 投資活動支出	
固定資産取得支出	1,855,875
ソフトウェア支出	1,855,875
特定預金支出	19,313,000
修繕積立預金支出	19,313,000
投資活動支出計	21,168,875
投資活動収支差額	31,831,125

III 財務活動収支の部

科目	決算額(円)
1. 財務活動収入	
財務活動収入計	0
2. 財務活動支出	
財務活動支出計	0
財務活動収支差額	0

当期収支差額	△ 25,398,903
前期繰越収支差額	26,216,609
次期繰越収支差額	817,706

特別会計 ゴールドリボン基金

I 事業活動収支の部

科目	決算額(円)
1. 事業活動収入	
財産運用収入	5,145
寄付金収入	20,958,005
雑収入	400
事業活動収入計	20,963,550
2. 事業活動支出	
事業費	11,319,445
消耗品費	209,028
印刷製本費	147,000
旅費交通費	355,250
通信運搬費	108,350
会議費	0
雑費	225,784
ゴールドリボン製作費	3,374,753
治療研究助成費	4,000,000
リーダー会議等支援費	297,280
ICCCPO派遣費	870,000
経験者の会活動費	150,000
自立支援助成費	1,582,000
啓発活動費	0
事業活動支出計	11,319,445
事業活動収支差額	9,644,105

II 投資活動収支の部

科目	決算額(円)
1. 投資活動収入	
投資活動収入計	0
2. 投資活動支出	
固定資産取得支出	630,000
ソフトウェア仮勘定	630,000
投資活動支出計	630,000
投資活動収支差額	630,000

III 財務活動収支の部

科目	決算額(円)
1. 財務活動収入	
財務活動収入計	0
2. 財務活動支出	
財務活動支出計	0
財務活動収支差額	0

当期収支差額	9,014,105
前期繰越収支差額	29,600,115
次期繰越収支差額	38,614,220

特別会計 小児慢性疾患情報提供事業

I 事業活動収支の部

科目	決算額(円)
1. 事業活動収入	
助成金収入	10,931,000
繰入金収入	3,000,000
事業活動収入計	13,931,000
2. 事業活動支出	
助成事業費	10,931,000
事業費	19,931,000
諸謝金	0
旅費	91,240
消耗品費	30,504
印刷製本費	2,421,824
通信運搬費	1,488,348
借料および損料	1,045,800
雑役務費	6,300
賃金	5,846,984
繰入金支出	3,000,000
事業活動支出計	13,931,000
事業活動収支差額	0

II 投資活動収支の部

科目	決算額(円)
1. 投資活動収入	
投資活動収入計	0
2. 投資活動支出	
投資活動支出計	0
投資活動収支差額	0

III 財務活動収支の部

科目	決算額(円)
1. 財務活動収入	
財務活動収入計	0
2. 財務活動支出	
財務活動支出計	0
財務活動収支差額	0

当期収支差額	0
前期繰越収支差額	0
次期繰越収支差額	0


特別会計 小児がん児童・家族への慰問活動事業
I 事業活動収支の部

科目	決算額(円)
1. 事業活動収入	
助成金収入	3,300,000
雑収入	571
繰入金収入	1,304,179
事業活動収入計	4,604,750
2. 事業活動支出	
助成事業費	4,604,750
事業費	4,604,750
通信運搬費	6,070
事業協力費	3,134,500
旅費交通費	1,271,687
雑費	192,493
事業活動支出計	4,604,750
事業活動収支差額	0

II 投資活動収支の部

科目	決算額(円)
1. 投資活動収入	
投資活動収入計	0
2. 投資活動支出	
投資活動支出計	0
投資活動収支差額	0

III 財務活動収支の部

科目	決算額(円)
1. 財務活動収入	
財務活動収入計	0
2. 財務活動支出	
財務活動支出計	0
財務活動収支差額	0

当期収支差額	0
前期繰越収支差額	0
次期繰越収支差額	0

特別会計 小児がんの子どもたちの絵画展催事業
I 事業活動収支の部

科目	決算額(円)
1. 事業活動収入	
補助金収入	1,509,200
繰入金収入	858,161
事業活動収入計	2,367,361
2. 事業活動支出	
助成事業費	2,367,361
事業費	2,367,361
雑役務費	621,211
会議費	1,343,895
印刷費	402,255
事業活動支出計	2,367,361
事業活動収支差額	0

II 投資活動収支の部

科目	決算額(円)
1. 投資活動収入	
投資活動収入計	0
2. 投資活動支出	
投資活動支出計	0
投資活動収支差額	0

III 財務活動収支の部

科目	決算額(円)
1. 財務活動収入	
財務活動収入計	0
2. 財務活動支出	
財務活動支出計	0
財務活動収支差額	0

当期収支差額	0
前期繰越収支差額	0
次期繰越収支差額	0

特別会計 メイソン財団小児がん骨髄移植基金

I 事業活動収支の部

科目	決算額(円)
1. 事業活動収入	
助成金収入	5,500,000
雑収入	512
繰入金収入	1,000,000
事業活動収入計	6,500,512
2. 事業活動支出	
助成事業費	6,300,000
事業費	6,300,000
小児がん骨髄移植事業費	6,300,000
事業活動支出計	6,300,000
事業活動収支差額	200,512

II 投資活動収支の部

科目	決算額(円)
1. 投資活動収入	
投資活動収入計	0
2. 投資活動支出	
投資活動支出計	0
投資活動収支差額	0

III 財務活動収支の部

科目	決算額(円)
1. 財務活動収入	
財務活動収入計	0
2. 財務活動支出	
財務活動支出計	0
財務活動収支差額	0

当期収支差額	200,512
前期繰越収支差額	0
次期繰越収支差額	200,512

特別会計 三重ファミリールーム

I 事業活動収支の部

科目	決算額(円)
1. 事業活動収入	
寄付金収入	8,089,098
負担金収入	526,100
施設利用料収入	526,100
雑収入	2,131
事業活動収入計	8,617,329
2. 事業活動支出	
事業費	741,665
運営費	741,665
保健衛生費	241,665
小児がんキャンプ補助	500,000
小児病棟遠足補助	0
管理費	1,796,061
光熱水費	513,592
消耗品費	261,449
保安料	126,994
修繕費	17,913
雑費	30,449
借地料	845,664
ボランティア保険	0
事業活動支出計	2,537,726
事業活動収支差額	6,079,603

II 投資活動収支の部

科目	決算額(円)
1. 投資活動収入	
投資活動収入計	0
2. 投資活動支出	
投資活動支出計	0
投資活動収支差額	0

III 財務活動収支の部

科目	決算額(円)
1. 財務活動収入	
財務活動収入計	0
2. 財務活動支出	
財務活動支出計	0
財務活動収支差額	0

当期収支差額	6,079,603
前期繰越収支差額	9,572,211
次期繰越収支差額	15,651,814


特別会計 難病の児童を持つ家族への支援事業
I 事業活動収支の部

科 目	決算額(円)
1. 事業活動収入	
補助金収入	1,369,000
事業活動収入計	1,369,000
2. 事業活動支出	
繰入金支出	1,369,000
事業活動支出計	1,369,000
事業活動収支差額	0

II 投資活動収支の部

科 目	決算額(円)
1. 投資活動収入	
投資活動収入計	0
2. 投資活動支出	
投資活動支出計	0
投資活動収支差額	0

III 財務活動収支の部

科 目	決算額(円)
1. 財務活動収入	
財務活動収入計	0
2. 財務活動支出	
財務活動支出計	0
財務活動収支差額	0

当期収支差額	0
前期繰越収支差額	0
次期繰越収支差額	0



2010年度 (2010年4月1日～2011年3月31日) の事業概況

1 研究助成事業

(1) 治療研究助成

がんの子供を守る会では、小児がんが不治の病といわれていた1968年に治療研究委員会を発足させ、今日まで「小児がんを治る病気にしてほしい」という親の悲願を一日も早く達成させるため、小児がんの治療上有効な研究に対して助成を行っています。

小児がんのおよそ7割で治癒が見込めるようになった現在も、さらなる医療の水準および患児家族の生活の質の向上はもちろんのこと、治療成績の向上とともに増加している小児がん経験者およびの治療後の身体的・精神的影響などに関する研究に対しても、2006年度に設立されたゴールドリボン基金により助成を行っています。

2010年度は、公募を行ったところ17件の応募があり、治療研究委員会（2010年2月16日開催）及び理事会（2010年3月26日開催）にて審議した結果、下記の通り14件に助成しました。

①小児がんに対する新治療法開発に関する研究（機能温存療法等を含む）

研究課題	代表研究者	助成金額
肝芽腫における予後予測および薬剤選択マーカーの探索	春田 雅之 埼玉県立がんセンター臨床研究所	100万円
小児固形悪性腫瘍における新規腫瘍マーカー Glypican3による診断システムの確立と免疫遺伝子治療	木下 義晶 九州大学小児外科	100万円
難治性神経芽腫における増幅遺伝子の同定に基づく新規治療法の開発	笠井 文生 埼玉県立がんセンター臨床研究所	50万円

②小児がんの標準的治療法の確立に関する研究

研究課題	代表研究者	助成金額
小児腎腫瘍グループスタディにおける難治性腎腫瘍に対する標準的治療法の確立	越永 従道 日本大学医学部小児外科	100万円
ユーイング肉腫ファミリー腫瘍に対する集学的治療法の確立	麦島 秀雄 日本大学医学部小児科学系小児科学分野	100万円
小児肝癌の国際的標準治療法の確立に関する研究	檜山 英三 広島大学自然科学研究支援開発センター	100万円
小児固形腫瘍の生物学的特異性の解明と新たな病理組織分類アトラス作成	堀江 弘 千葉県こども病院検査部病理科	100万円



③小児がんのトータルサポートに関する研究（精神的サポート、就学・就職支援、家族支援、遺伝相談、合併症対策支援、宿泊施設等）

研究課題	代表研究者	助成金額	
小児がんに対するステロイド適正使用と副作用対策の標準治療法の確立のための調査	山崎 文之 広島大学病院脳神経外科	50万円	※
小児がん患者の母親に対する支援の効果（系時的变化）	高宮 静男 西神戸医療センター精神科	50万円	※
PedsQL 基準範囲の作成：頭蓋内胚細胞腫瘍患者の治療中・治療後のQOL	佐藤 伊織 東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻家族看護分野	100万円	※
大量化学療法・造血幹細胞移植による小児がん患者の皮膚障害に対するケアの検討：写真画像解析・数値化をもとにした評価指標の作成	前田 留美 東京医科歯科大学大学院 保健衛生学研究科国際看護開発学	100万円	※
メンタルコミットロボットを用いた入院支援活動が小児がん患者と家族に与える精神的変化の定量的研究 －ロボットセラピーによる癒しの効果－	岡田 忠雄 北海道大学病院小児外科	50万円	※
チャイルド・ライフ・スペシャリスト（CLS）による小児がん患者およびその家族の精神的サポート	馬戸 史子 大阪大学医学部附属病院 小児医療センター・小児科	50万円	※

④その他

研究課題	代表研究者	助成金額
小児胚細胞腫瘍のエピジェネティック変異による新たな予後因子の発見と分子標的治療への臨床応用	中舘 尚也 北里大学医学部小児科学	100万円

助成額

一般会計	8件	750万円
ゴールドリボン基金（※印）	6件	400万円

また、小児がんの治療上有効と位置づける研究グループに対しては、治療研究委員会及び理事会において審議のうえ、指定寄付金を募り助成を行っています。2010年度は、下記の通り6件に対し助成しました。

研究課題	代表研究者	助成金額
TCCSGに於ける小児の急性白血病を中心とした研究	東京小児がん研究グループ（TCCSG） 代表 小原 明	370.5万円
インターグループによる小児白血病の研究	小児白血病研究会（JACLS） 代表 小田 慈	47.5万円
多施設共同研究による乳児急性リンパ性白血病の治療法の確立	石井 榮一 愛媛大学大学院医学系研究科小児医学	237.5万円
MRD定量に基づく層別化を取り入れた小児リンパ性白血病治療研究	横田 昇平 京都府立医科大学血液・腫瘍内科	380万円
小児急性リンパ性白血病における定量的MRD測定方法確立のための研究	鶴澤 正仁 愛知医科大学小児科	95万円
日本小児白血病リンパ腫研究グループにおける臨床研究の基盤整備に関する研究	日本小児白血病リンパ腫研究グループ 代表 堀部 敬三	9.5万円
合 計		1,140万円

●治療研究委員会（所属は2011年3月31日現在）

河 敬世	大阪府立母子保健総合医療センター 顧問
別所 文雄	杏林大学医学部 小児科
水谷 修紀	東京医科歯科大学大学院・医歯学総合研究科 小児科
福澤 正洋	大阪大学大学院医学系研究科小児外科学講座 小児外科
細谷 亮太	聖路加国際病院 副院長
杉本 徹	済生会滋賀県病院 院長
田尻 達郎	九州大学 小児外科
黒田 達夫	国立成育医療研究センター 外科
橋都 浩平	東京西徳洲会病院 総長
野崎 美和子	獨協医科大学越谷病院 放射線科
逸見 仁道	東邦大学医学部 分子生物学研究室

(2) 研究セミナー等助成

①小児がん研究奨励賞

小児がん研究奨励賞は小児がんに関する学術の進歩と知識の普及により、小児がん治療成績の向上を図ることを目的として1992年に創設され、優秀な研究に対して賞状ならびに副賞の贈呈を行っています。特定非営利活動法人日本小児がん学会雑誌「小児がん」の中から、1年間で掲載された優秀論文を審査し、受賞者を決定します。

■受賞者

論文名	筆頭著者
「日本ウィルムス腫瘍スタディーグループ-1 (JWiTS-1) 登録症例の追跡調査報告」 「小児がん」第46巻3号	大植 孝治 日本ウィルムス腫瘍スタディ (JWiTS) グループ
「小児がんに対するWT1ペプチドによるワクチン療法」 「小児がん」第46巻1号	澤田 明久 大阪府立母子保健総合医療センター 血液・腫瘍科

②日本小児がん学会事務局

小児がんが不治の病であった1970年以降、医師との協働の必要性から日本小児がん学会（当初は小児がん研究会）を金銭的また人的支援をするために事務局を受託してきました。2010年度も引き続き事務局を受託し、学会運営のサポートを推進しました。

(3) 調査研究助成事業

①海外留学助成

小児がん領域における若手オンコロジストの育成並びに当領域における研究のより一層の向上・発展を図ることを目的とし、海外の大学あるいは研究施設に留学し小児がん領域における基礎・臨床の研究を行う臨床研究者に対して「Pediatric Oncology Research Fellowship」（PORF 海外留学助成制度）を2001年度から実施しています。



■ 2010年度助成対象者

京都大学大学院医学研究科 発達小児科学 藤野 寿典

研究テーマ：Elucidation of the role of Rho GTPase signal pathway in human pediatric acute lymphoblastic leukemia initiation

②日本小児がん学会の調査研究活動等に関する支援

■ 日本小児がん学会の活動に対する助成

小児がんに関わる医師などで構成される日本小児がん学会に対して、治療成績向上をはじめとする小児がん医療の発展を支援するためその活動に対して助成金を支出しています。2010年度は、学会活動全般に対して220万円を助成しました。

■ 小児がん全数把握登録事業^(*)への助成

日本における小児がんの発生率を把握する手段がない現状において、その活動を展開している日本小児がん学会に対して事業の支援をするために助成金を支出しています。2010年度は、登録事業推進のために240万円を助成しました。

(*) 小児がん全数把握登録事業：小児がんの発症が年間何人か、男女の割合、発症しやすい年齢などの統計を出す事によって得られた情報を医学研究のベースとすること及び保健医療政策の決定に寄与することを目的とする事業。

2 療養援助事業

(1) 療養助成

療養援助事業は、患児が等しく必要とする医療が受けられること、療養に伴う経済的負担が軽減されることを目的としています。療養助成には、「一般療養助成」と「特別療養助成」の2種類があり、それぞれ助成対象者、助成対象事項は下記のとおりです。

■一般療養助成

- 対象者**
- 18歳未満で小児がんを発症し、申請時20歳未満の抗腫瘍治療を受けている患児の家族
 - 扶養者（両親共働きの場合はお二人の収入）の前年の総収入が400万円以下の方
- 助成対象事項** 療養のために必要な諸経費全般
- 助成金額** 5万円（一疾病について一回限り）

■特別療養助成

- 対象者** 18歳未満で小児がんを発症し、申請時20歳未満の抗腫瘍治療を受けている患児の家族
- 助成対象事項** ■療養のために必要な諸経費
- ・入院中の患児の看護・介護のために必要な付添費
 - ・病院近くに滞在することが必要なときの宿泊施設等の滞在費
 - ・病院と自宅が片道おおむね150km以上離れている場合の交通費
 - ・患児の特殊装具やカツラ作成のためにかかった経費
 - ・闘病に伴って必要となったきょうだい（未就学年齢）の保育料
 - ・造血幹細胞移植など、主治医が患児の治療上必要と認めたものに対してかかった経費（但し、健康保険の対象とならない薬剤や代替療法等にかかる経費は原則対象外）
- 助成対象期間** 申請時を含む3ヶ月間
- 助成金額** 20万円以内（一疾病について一回限り）
- 審査** 療養援助委員会の審査会（年5回開催）にて、助成内容・金額を決定する。

●療養援助委員会（所属は2011年3月31日現在）

西村 昂三	元聖路加国際病院 小児科
横山 穰太郎	元慶應義塾大学医学部 小児外科
星 順隆	東京慈恵会医科大学附属病院 輸血部
別所 文雄	杏林大学医学部附属病院 小児科
黒田 達夫	国立成育医療研究センター 外科
花田 良二	埼玉県立小児医療センター 血液腫瘍科
前田 美穂	日本医科大学付属病院 小児科



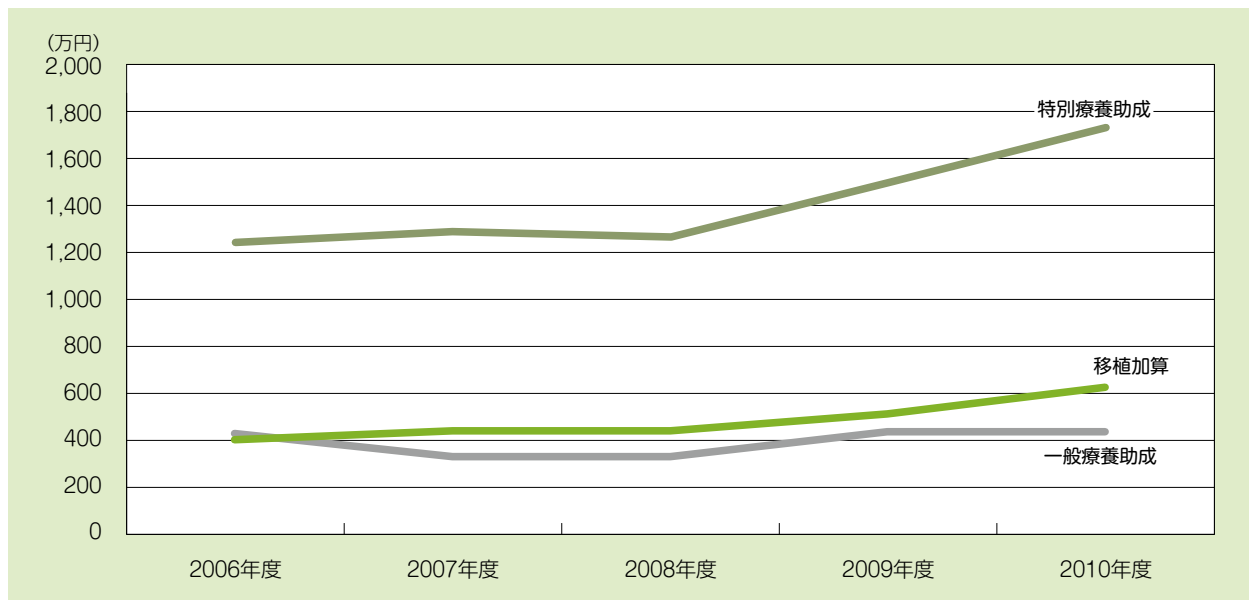
■一般療養助成 2010年度

	前年度	2010年度
申請件数	90件	91件
助成件数	89件	88件
助成総額	445万円	440万円

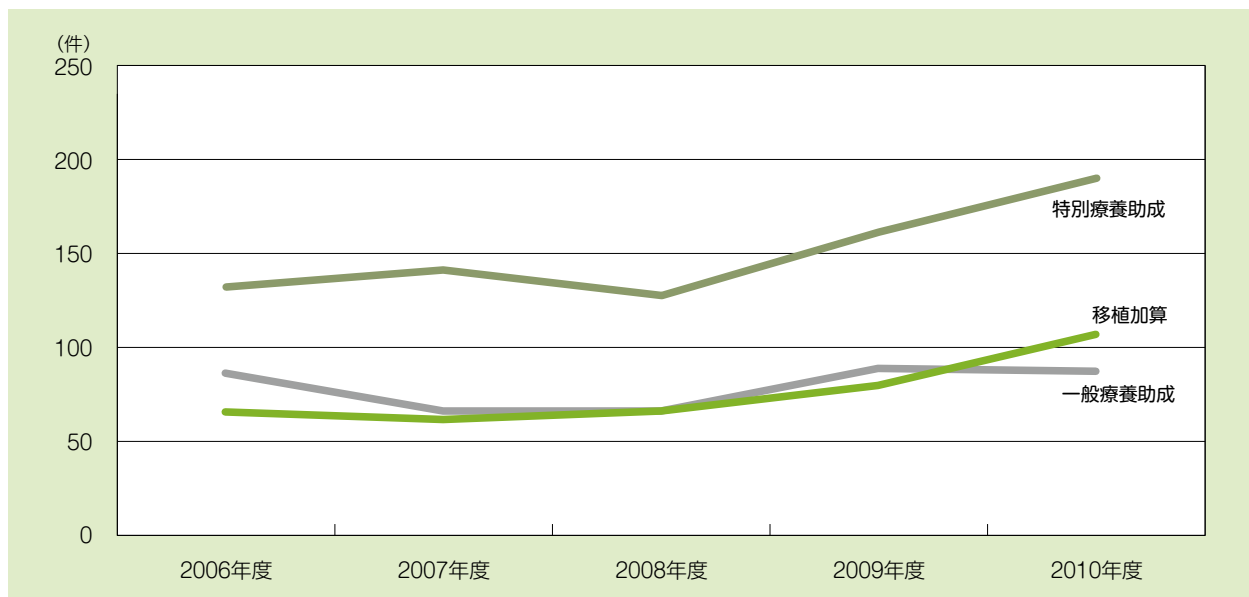
■特別療養助成 2010年度

	前年度	2010年度
申請件数	165件	198件
助成件数	162件	191件
助成総額 (平均)	1,492.1万円 (9.2万円)	1,733.6万円 (9.0万円)
移植加件数	81件	108件
移植加算総額 (平均)	513万円 (6.3万円)	630万円 (5.8万円)

■総助成額



■総助成件数



3 相談事業及び関連事業

(1) 小児がん相談事業

当会が設立された43年前は小児がんといえば不治の病とされていました。しかし、医療技術の進歩により、現在は小児がんの子どもたちの7割から8割が治るようになってきています。とはいえ、まだ年間550人の方が亡くなる深刻な病気でもあり、子どもの病死の第1位ともなっています。

子どもががんになったとき、会には相談が多く寄せられます。子どもに代わり治療方針を選択する迷い、患児への告知をどうするか、元気なきょうだいの面倒を誰がみるか、経済的な困難を抱える若い親も珍しくありません。治療中だけではなく、子どもは治療後の生活が長いだけに、治ったあとでも様々な不安を抱えることがあります。また、子どもを亡くしたご家族や、最近では親だけではなく、治療を終えた本人や、きょうだいからの相談も寄せられるようになりました。

子どものがんで生じる悩みの一つに、心身が成長する時期に治療を行うことにより生じる晩期合併症（成長障害や不妊、二次がん、こころ等）の問題があります。それらが進学や復学、就職、結婚といった社会生活に与える影響を与えることがあります。このことは一般の方にはまだ十分に知られておらず、そのために辛い思いをする小児がん経験者や家族も少なくありません。

こうした不安を抱えるご家族や小児がん経験者、また医療関係者や教育保育関係者等からの相談を受け、当会では、1973年に専任のソーシャルワーカーを1名設置して以来、専門のソーシャルワーカーが全国から寄せられる相談をお受けしています。現在は、7名のソーシャルワーカーが東京・大阪の両事務所に配置されています。

(2) 小児慢性疾患情報提供事業

小児慢性疾患に罹患している患児およびその家族に対する福祉対策の一層の充実を図ることを目的として「小児慢性特定疾患情報提供事業」として相談業務の一部を行うほか、機関誌「のぞみ」の発行及び、のぞみの誌面にて「小児慢性疾患情報コーナー」を設け、難病の子どもの支援団体の紹介と宿泊施設の紹介をしています。

■小児がん以外の相談 55件／16,245件中

■機関紙「のぞみ」情報提供コーナー

号	難病の親の会の紹介	全国の宿泊施設の紹介
161	日本水頭症協会	北海道地区の宿泊施設 札幌医大ファミリーハウス・札幌北楡病院 宿泊室
162	日本レット症候群協会	北海道地区の宿泊施設 NPO法人北海道ファミリーハウス・北海道病院ファミリーハウス・北海道難病センター
163	日本コケイン症候群ネットワーク	沖縄地区の宿泊施設 ファミリーハウス「がじゅまるの家」
164	日本トゥレット協会	鹿児島地区の宿泊施設 鹿児島ファミリーハウス

■他の難病支援団体との連携

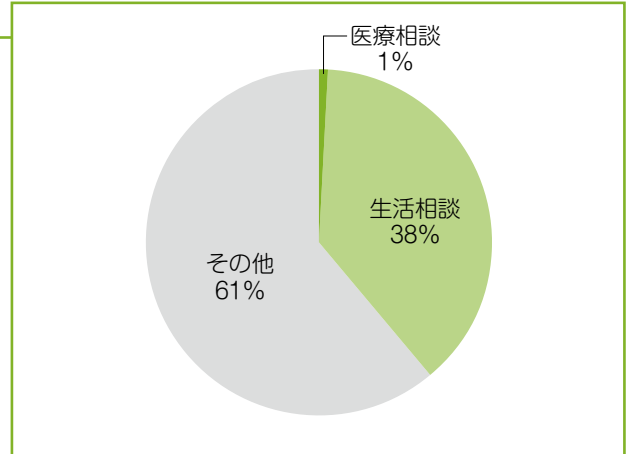
年月日	内容
2010. 6. 6	がん患者団体支援機構総会出席
7. 10	難病のこども支援全国ネットワーク親の会定例会への参加
10. 3	JHHHネットワーク会議参加
11. 28	第1回難病・慢性疾患全国フォーラム ・実行委員として準備段階から参加 ・小児がん経験者がシンポジストとして出席
2011. 1. 15	難病のこども支援全国ネットワーク親の会定例会への参加



1. 相談受案件数

(単位：件)

医療相談	100
生活相談	7,674
その他	12,297

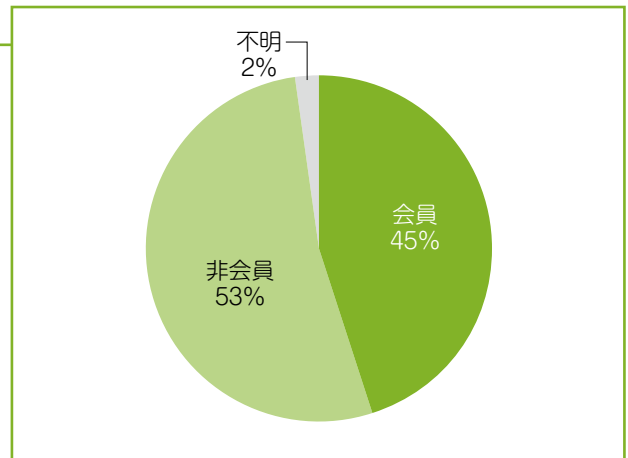


2. 対象別生活相談受案件数

(単位：件)

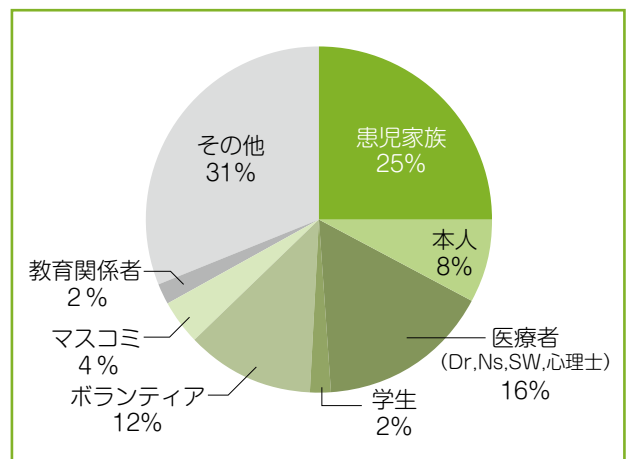
①会員別内訳

①会員別内訳	16,245
会員	7,359
非会員	8,513
不明	373



②対象別内訳

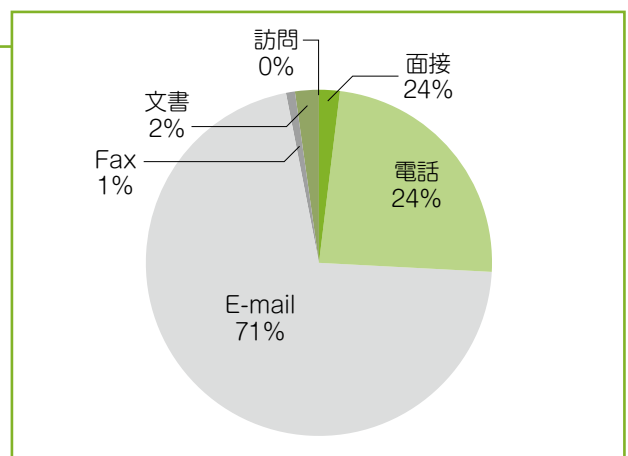
②対象別内訳	16,245
患児家族	3,993
本人	1,364
医療者 (Dr, Ns, SW, 心理士)	2,675
学生	289
ボランティア	1,990
マスコミ	650
教育関係者	306
その他	4,978



3. 手段

(単位：件)

面接	354
電話	3,968
E-mail	11,479
Fax	95
文書	312
訪問	37



(3) 講演会・交流会の開催

同じ疾患を持つ患児家族の交流や勉強会を目的として次のような会を開催しました。

①疾患別の相談会

年月日	内 容	講 演	参加者
2010. 5. 15	神経芽腫の会	「リスク評価に基づいた神経芽腫治療」 米田 光宏 (大阪府立母子保健総合医療センター 小児外科)	6名
7. 24	悪性リンパ腫の会	「小児リンパ腫治療の現況と今後の課題」 堀部 敬三 (国立病院機構名古屋医療センター 小児科)	4名
8. 7	横紋筋肉腫の会	「横紋筋肉腫に対する治療の現況」 福澤 正洋 (大阪大学医学部附属病院 小児外科)	12名
10. 16	骨・軟部腫瘍の会	「骨・軟部肉腫治療の変遷と進歩～小児骨肉腫を中心に～」 上田 孝文 (国立病院機構大阪医療センター 整形外科)	7名
11. 6	脳腫瘍の会	「小児脳腫瘍治療：誤解と落とし穴」 高橋 潤 (財団法人田附興風会医学研究所 北野病院 脳神経外科)	20名

※場所はすべてアフラックペアレンツハウス大阪

②個別相談会

年月日	内 容	講 師	参加者
2010. 9. 7	脳腫瘍の個別相談会 〈アフラックペアレンツハウス大阪〉	松谷 雅生 (埼玉医科大学国際医療センター 脳・脊髄腫瘍科)	4名
2011. 2. 27	内分泌の個別相談 〈アフラックペアレンツハウス浅草橋〉	横谷 進 (国立成育医療研究センター 内分泌代謝科)	3名

(4) 子どもを亡くした家族の会

①子どもを亡くした家族の交流会

子どもを亡くした家族の交流やわかちあいの場の提供を目的として、交流会を年8回開催しました。各回とも、当会ソーシャルワーカーの司会のもと、参加者が体験や近況などを話しあい交流を深めました。

また、身近な人との死別のストレスや死別体験に伴う心理社会的問題などの客観的な話を専門家から体系的に聞くこともグリーフワーク（喪の作業）を進める上で有用と考え、日本で初めて遺族外来を設立された大西秀樹先生（埼玉医科大学国際医療センター精神腫瘍科）の講演会を開催しました。

年月日	内 容	参加者
2010. 5. 22	通常開催 〈アフラックペアレンツハウス浅草橋〉	10名
8. 7	父親限定 〈アフラックペアレンツハウス浅草橋〉	10名
8. 28	通常開催 〈アフラックペアレンツハウス大阪〉	2名
11. 18	通常開催 〈アフラックペアレンツハウス浅草橋〉	8名
11. 27	父親限定 母親限定「こすもす」* 〈アフラックペアレンツハウス大阪〉	父親 6名 母親 3名
2011. 1. 22	大西秀樹先生の講演会 〈共和会館（東京都台東区柳橋）〉	講演会 65名 交流会 49名
2. 24	闘病期間の短かった方限定 〈アフラックペアレンツハウス浅草橋〉	2名
3. 26	母親限定「こすもす」* 〈アフラックペアレンツハウス大阪〉	12名

*こすもす…関西支部と共催。助言者：宮崎清恵先生（神戸学院大学リハビリテーション学部）



②短期集中型サポートグループ

子どもを亡くされたことに関する様々な感情の表出や共感の機会の提供を目的として、子どもを亡くされて1年未満の母親を対象にサポートグループを開催しました。

■2010年度秋のサポートグループ

2010年度は秋にアフラックペアレンツハウス浅草橋にて1回実施し4名が参加しました。グループの開催前に参加者との事前面接を行ったうえで、少人数の同じメンバーにて毎週1回原則90分の集まりをもち、各回とも異なるテーマのもとに話し合いを行いました。6回の集まりの後、再び参加者と個別に事後面接を行いました。

■2009年度秋のサポートグループ同窓会

6回のサポートグループ及び事後面接が終了した後は、参加者へのフォローアップの目的もかねて、半年後及び1年後の2回にわたりサポートグループ同窓会と称した集まりをもっています。2010年度は、2009年秋に開催したグループの同窓会を2回行いました。

(5) 親の会支援

①親の会支援

全国の病院内や疾病別に発足している小児がん親の会は、子どもが小児がんにかかった親たちが身近に相談できる場所として大変重要です。各会に対して、運営や設立に関する相談に応じるほか、当会に寄贈されたグッズ等を配布し、また、活動資金として19グループに支援金を交付しました。

親の会名	活動場所	支援金額
横浜市大附属病院小児科親子の会 さんふらわ	横浜市立大学附属病院	2万円
長期入院患児と家族を支える親の会 わたぼうしの会	岐阜大学医学部附属病院	2万円
静岡県立子ども病院 ほほえみの会	静岡県立こども病院	2万円
きょうとたんぼぼの会	京都大学医学部附属病院	2万円
ユーイング肉腫の会	全国	2万円
COSMOS会	国立がん研究センター中央病院	2万円
げんきの会	日本大学医学部附属板橋病院	2万円
網膜芽細胞腫の子どもを持つ家族の会 すくすく	全国	2万円
福岡大学病院小児科親の会 みらい	福岡大学病院	2万円
まるっけ会	岐阜市民病院	2万円
肝芽腫の会	全国	2万円
ハッピーウィング	富山県	2万円
LCH患者会	全国	2万円
聖路加国際病院小児科病棟親の会「リンクス」	聖路加国際病院	2万円
東邦大学医療センター大森病院 ひだまりの会	東邦大学医療センター大森病院	2万円
コスモの会	香川大学医学部附属病院	2万円
えがお	群馬県立小児医療センター	2万円
九州がんセンター小児科親の会「大きな木」	九州がんセンター	3万円
光の会	東海大学医学部附属病院	3万円

②親の会連絡会

小児がん親の会が、お互いの運営や活動を共有しあうことを目的として年1回の集まりを持ち情報交換を図る場として1997年より「全国小児がん親の会連絡会」を開催しています。

14回目となる2010年度は、日本大学医学部附属板橋病院リサーチセンターを会場に、同院で活動している「げんきの会」幹事のもと開催いたしました。当日は全国から19団体42名の参加があり、日本大学医学部附属板橋病院副院長麦島秀雄先生の講演の後、「親の会の活動について」「世代交代について」「病院・医療者との関わりについて」「親の会ができること」というテーマに分かれて話し合いを行いました。各グループでは、具体的な世代交代の過程や院内学級をはじめとする療養環境の整備について、院内の様々な職種の方に協力を求めていく必要性などが熱心に話し合われました。

(6) きょうだいの支援

■富士山登山キャンプ

小児がんの子どもや家族を対象としたキャンプやイベントは各地で開催されるようになっている一方で、小児がんの子どもやきょうだい向けのイベントは少なく、出会いや交流の場が少ないのが現状です。そこで、当会では2001年より毎日新聞社の支援を受けて小児がん患児のきょうだいのための富士登山を行っています。2010年度は、小児がん経験者1名を含む17名とボランティア9名、医師2名、当会ソーシャルワーカー2名の参加でした。2008年より開催している「きょうだいのお話会」も、回を増すごとに参加者の期待度も上がり、貴重な時間を過ごすことができます。

協賛：あいおい損害保険株式会社、財団法人東京メソニック協会

寄贈：株式会社スタイリングライフ・ホールディングス プラザスタイルカンパニー(思い出カード)、コールマンジャパン株式会社(グッズ)



(7) ボランティアの育成・実習生の受け入れ

①遊びと学習のボランティア たんぽぽ

「遊びと学習のボランティア たんぽぽ」とは、当会ソーシャルワーカーが福祉系大学に通う学生に呼びかけ結成されたボランティアグループであり、1992年より現在まで、東京慈恵会医科大学附属病院小児科病棟にボランティアを週1回派遣し、入院児を対象に遊びや学習支援活動を行っています。

2010年度は、活動を行う上で必要なボランティアメンバー間のミーティングを6回(隔月)で開催し、活動報告及び連絡ツールとして「たんぽぽ 新聞」を6回(隔月)発行しました。同院のボランティア組織「スマイルボランティア-JIKEI-」の調整会議及び懇親会にも参加しました。



②実習生の受け入れ

小児がんに関する専門家の育成に協力するため、事務所にて実習生を受け入れました。

年月日	実習生
2010. 6 .15	東京福祉大学池袋キャンパス 社会福祉学部社会福祉学科社会福祉専攻社会福祉コース2年（2名）
9.16	日本女子大学4年（1名）

(8) オンコロジーソーシャルワーク研究会の支援

オンコロジーソーシャルワーク研究会の事務局を当会のソーシャルワーク研修事業として担当しました。（詳細は「11.ソーシャルワーカーの研修事業」の通り）

4 ゴールドリボン推進活動

(1) 小児がん経験者の自立支援助成

小児がんなど難病の子どもは、長い入院生活、また長期にわたる療養生活を強いられます。それに伴い、長期間の学校の欠席、日常生活での感染上の注意や運動制限などのために病気を持たない子どもと同じような日常生活を送ることが困難な場合があり、社会的な自立が難しい場合もあります。

当会では、2006年10月、主に小児がん経験者への支援活動を目的としたゴールドリボン基金を設立し、同基金による自立支援活動の一環として、2008年度から、社会的自立に意欲のある小児がん経験者を経済的に援助し自立を促すことを目的とし、自立に必要な費用の一部を助成する小児がん経験者自立支援助成を開始しました。

2010年度は、2009年11月1日～2010年1月15日まで公募を行ったところ、自立を目指す意欲を持った小児がん経験者5名からの応募があり、審査会（2010年3月4日開催）にて書類審査の結果、下記の通り4名に助成しました。

■ 2010年度助成内容

また、2009年度の助成対象者3名から助成期間中の報告書の提出を受け、そのうち2名と面談を行い、近況などの報告を受けました。

申請者	助成内容	助成額
29歳男性	自動車運転免許取得のため	30万円
22歳女性	一人暮らしを始めるための初期費用の一部	50万円
19歳女性	特別支援学校教諭一種免許状取得のため	28.2万円
18歳女性	語学あるいは文化に関係した大学の学費の一部	50万円

(2) 小児がん経験者の会の活動支援

① 小児がん経験者の会リーダーの集い

小児がん経験者の会のリーダー及びこれから会を立ち上げようとしている小児がん経験者たちが、会を運営する悩みや課題を一緒に考え共有していくことを目的とし、2003年より「小児がん経験者の会リーダーの集い」を開催しています。

2010年度は2010年12月18日にアフラックペアレンツハウス大阪にて開催し、全国から8グループ18名が参加しました。愛媛地域の会「Purity」が2010年度の幹事として、企画・準備を担当し、参加者より挙げた「新しい人員の獲得」、「新しいリーダーの育成」・「グループの存在をどう世間に知ってもらうか」などについて話し合わせ、新たな問題や、解決策の糸口を見つけることができました。

② Fellow Tomorrow（フェロー・トゥモロー）への支援

1993年に発足した小児がん経験者の会「Fellow Tomorrow（フェロー・トゥモロー）」の2010年5月16日に開催された総会及び、2010年10月17日、2011年2月20日に開催された定例会に当会ソーシャルワーカー参加し、運営の助言や参加者への支援を行いました。また、「Fellow Tomorrow（フェロー・トゥモロー）」入会希望者への心理社会的支援を行いました。

③ WISHへの支援

2000年に発足された東海地域の小児がん経験者の会「WISH」の2010年5月8日、2010年9月18日の定例会および2010年8月28日に開催された親睦会に当会ソーシャルワーカーが参加し、運営の助言や参加者の支援を行いました。また、第10回中部トータルケア研究会（2010年10月2日）における発表「WISH 10年の歴史」にも支援を行いました。



④全国の小児がん経験者の会の運営の支援

相談が寄せられた小児がん経験者の会に対し、運営についての助言を行いました。

⑤活動費の支援

小児がん経験者の会に対して活動費の支援を行っています。2010年度は4団体より申請があり、以下の3団体へ計15万円の活動費の支援を行いました。

団体名	活動場所	支援目的	支援金額
まりも	北海道	・北海道内の主要病院にまりもの広告や活動報告の設置 ・宿泊交流会の開催と参加者への交通費助成	5万円
MAKTY	広島	・年に3回（8月・12月・3月）の交流会の通信費 ・チラシの作成費 ・「ミニミニ幼稚園」交通費一部補助	5万円
Smile Days	九州	・セルフヘルプグループ活動 ・講演活動、交流活動等	5万円

(3) 国際小児がん親の会連盟 (ICCCPO) への参加と協力

①ICCCPO年次総会への参加

2010年10月21日より24日に米国ボストンにてSIOP（国際小児がん学会）と同時に開催された第17回ICCCPO年次総会に、山下公輔副理事長、ソーシャルワーカー1名、及び公募の上決定した小児がん経験者3名（ゴールドリボン基金により派遣）の計5名が参加しました。なお、年次総会にて新たに11団体がICCCPOに加わり、ICCCPO全体の加盟国は、81カ国138団体となりました。



②PHPF (Parents Helping Parents Fund) への協力

発展途上国等のICCCPO年次総会参加を支援するための基金「PHPF」に500ユーロの寄付を行いました。

③WCC (World Child Cancer) への協力

発展途上国への支援活動を展開するICCCPOの関連団体「WCC」に300ユーロの寄付を行いました。

(4) ゴールドリボン基金による治療研究助成

当会の治療研究委員会が選定した小児がん経験者のフォローアップ等をテーマにした研究（6件）に助成しました。（詳細は前述「治療研究助成」のとおり）

5 ボランティアコーディネート・ボランティア研修会

(1) ボランティアコーディネート

当会事業推進のために、ボランティアの協力をいただきました。

(2) ボランティア研修会

1995年度よりスタートした子どもの遊びと学習ボランティア「たんぽぽ」の派遣事業の研修会として始まり、現在は当会ボランティアに登録された方に必ず受けていただいています。

年月日	内 容	参加者
2010. 5.20	ボランティア初回研修会（大阪）	7名
6. 4	ボランティア初回研修会	7名
6.15	ボランティア初回研修会（大阪）	7名
6.18	たんぽぽボランティア研修会① 講師：菅原節子 東京慈恵会医科大学ボランティア事務局	10名
10.15	たんぽぽボランティア研修会② ・「活動中のヒヤリ・ハット」について ・バルーンの実習	6名

(3) アフラックペアレンツハウス大阪でのボランティアの受け入れ

6月より月2回（隔週水曜日）にボランティアの受け入れを行い、アフラックペアレンツハウス大阪の運営に協力をいただきました。（活動日数：21日、延べ活動者数：43名）



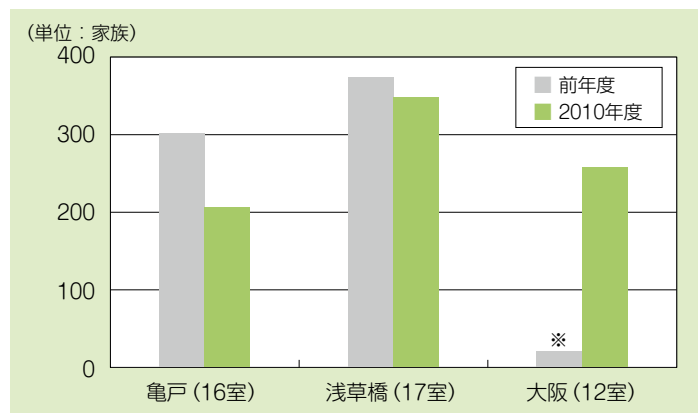
6 総合支援施設の運営事業

(1) アフラックペアレンツハウスの運営事業

アフラックペアレンツハウスは小児がんなど難病の患児、家族のための日本で最初に建設された総合支援施設です。遠隔地から治療のために来ている付き添い家族のための宿泊施設としてだけでなく、治療中、治療後の患児、家族が抱える様々な問題に対して支援をしています。亀戸（東京都江東区亀戸、2001年2月より）、浅草橋（東京都台東区浅草橋、2004年12月より）、大阪（大阪府大阪市中央区、2010年1月より）の3施設は、いずれも開設以来順調に運営されています。運営費用については、アフラック並びに全国の代理店（アソシエイツ）ほかの支援を得ています。

■ 利用状況（延べ利用家族数）

		前年度	2010年度
亀戸 (16室)	合計	301	206
	月平均	25	17
浅草橋 (17室)	合計	374	349
	月平均	31	29
大阪 (12室)	合計	18	259
	月平均	6	21



※大阪の前年度は1月（開設）～3月の集計

(2) その他の宿泊施設の運営

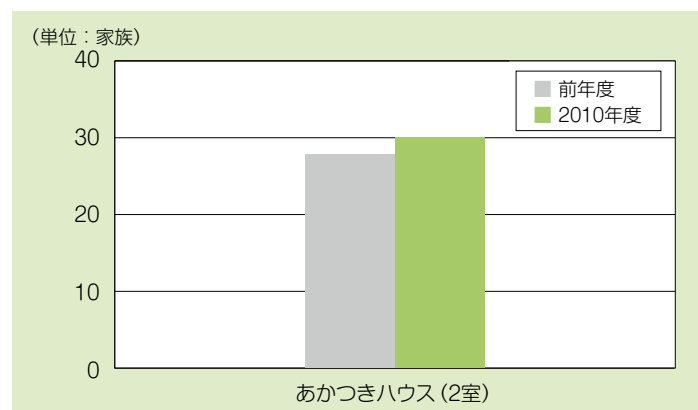
① あかつきハウス

1995年にオープンした「あかつきハウス」は、遠隔地から東京都中央区内の病院で治療をされる患児とその家族のための宿泊施設です。あかつき公園に隣接する区立住宅「あかつき住宅」の2戸を「あかつきハウス」として借り受け、当会が管理・運営しています。

室内は6畳和室と台所、トイレ、浴室があり、家具や洗濯機、食器など日常生活に必要な備品が完備されています。利用料は1部屋2,000円（宿泊代と維持管理費として）です。

■ 利用状況（延べ利用家族数）

	前年度	2010年度
合計	28	30
月平均	1	3

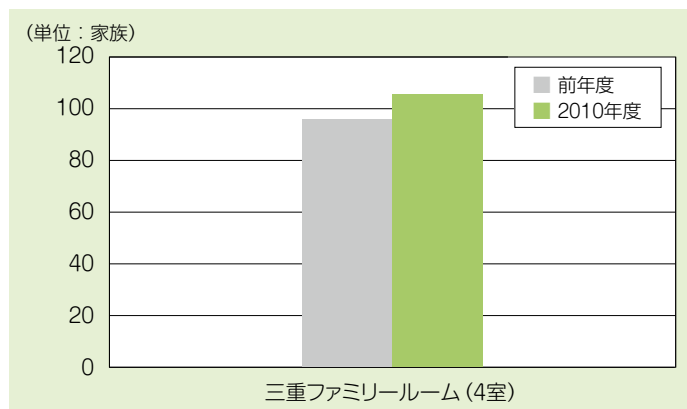


②三重ファミリールーム

2000年にオープンした三重ファミリールームは、三重大学医学部附属病病院、および近郊の病院に入院中あるいは小児科外来等に通院中の小児慢性疾患児とその家族のための宿泊施設です。三重ファミリールーム運営委員会（三重大学附属病院小児科内）と当会で管理・運営しています。2階建ての建物に和室4室があり、日常生活に必要な電化製品や備品等が完備され、共同スペースとして、プレイルーム（兼談話室）、バルコニー・物干し台があります。利用料は1泊1,000円、昼間の部屋風呂の利用は300円です。

■利用状況（延べ利用家族数）

	前年度	2010年度
合計	96	106
月平均	8	9





7 「この子のためにできること 緩和ケアのガイドライン」の作成、配布

小児がんの治癒率が向上しているとはいえ、未だ年間550人余りの子どもたちが小児がんにより亡くなっています。彼らの多くは病院で最期を迎え、その過ごし方には施設差、地域差があることは否めず、子どもを亡くした家族にとって悔恨を残すことも少なくはありません。そこで、ターミナル期の小児がん患児のQOLの向上及び、施設差、地域差を無くし、小児がんの緩和ケア医療の改善を目的とするターミナル期のガイドラインの作成を進めてきました。

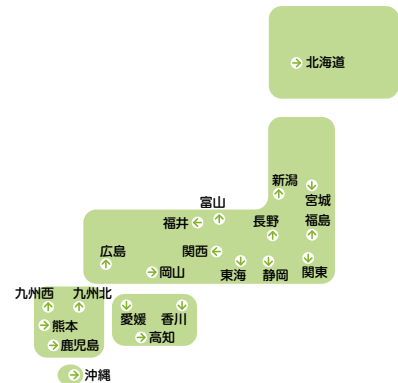
作成にあたっては、当会会員（子どもを亡くした父親、母親、きょうだい）、医師、看護師、ソーシャルワーカー、学校教諭等、多分野の委員にて構成された委員会にて執筆を進めるとともに、2007年より過去3回にわたり、日本小児血液学会・日本小児がん学会学術集会にてワークショップを開催し広く意見を収集しました。

2010年12月、初版5,000部を発行し、日本小児血液学会・日本小児がん学会学術集会でのシンポジウム「緩和ケアのガイドラインーこの子のためにできることー」にて発表しました。当会21支部、全国の病院・医師・ソーシャルワーカー（約450）、特別支援学級（約360）、全国の保健所等にも送付しました。2011年2月には4,000部の増刷を行いました。



8 支部活動

当会には全国に21の支部があります。(2011年3月31日現在) 各地の会員ボランティアにより組織され、地元の医療関係者等の協力を得ながら、各地のニーズにあわせた相談会や交流会などを開催し、患児家族と医療関係者のコミュニケーションを深めるとともに、患児家族のよりよい療養生活の実現を目指して活動しています。



(1) 講演会、交流会、相談会、総会等

年月日	支部	内 容
2010. 5. 8	福井	総会、「風のかたち」上映、分科会①バルーンアート教室、②ピアカウンセリング交流会③家族と経験者の会
5. 9	富山	総会、交流会、講演、体験発表
5.22	広島	総会、「風のかたち」上映、パネルディスカッション
5.23	香川	総会、講演会、交流会
6. 6	宮城	「そらの会」(子どもを亡くした親の会)
6. 6	福井	ぴあカウンセリング交流会
6.11	九州北	交流会、講演会、個別相談会
7. 3	関東	講演会「小児がん経験者のよりよい生活をめざして - 性機能と生殖器 -」
7. 4	関西	「のぞみトークきんき2010」 講演「子どもに対する造血幹細胞移植における最近の取り組み」
7.10	東海	子どもを亡くした親の会(虹の会)
7.10	北海道	「はるにれの会」(子どもを亡くした親の会)
7.11	静岡	静岡県東部保健所と共催による保護者交流会、「にじいろのえがお」(子どもを亡くした親の会)
7.11	新潟	総会、講演会
7.31	鹿児島	「風のかたち」上映会、細谷先生とのお話
8. 8	北海道	第37回難病患者・障害者と家族の全道集会(旭川大会)にて分科会(交流会)
8. 8	香川	パーベキュー大会、「四つ葉のクローバー(小児がん経験者の会)」の定例会
8.21	熊本	講演会「小児科医として見つめてきたもの」/後援:熊本市子育て支援課
8.22	静岡	ポーリング大会
8.22	広島	夏休みの宿題づくり、交流会
9. 5	福井・富山	「北陸小児がん研修会」 親御さんの体験談、交流会(小児がん経験者、経験者の親、子どもを亡くした親)
9. 5	東海	交流会、意見交換会
9.11	九州北	交流会、講演「長期フォローアップ」、個別相談会
9.18	静岡	「にじいろのえがお」(子どもを亡くした親の会)
9.19	高知	第1回小児がんフォーラム 講演とパネルディスカッション
10.31	鹿児島	子どもを亡くした親の会
11. 3	九州北	交流会、講演「治療後のホルモンに関する問題点について」、ディスカッション「経験者と話そう」
11.14	富山	「虹のかけはし(子どもを亡くした家族の交流会)」
11.18	静岡	個別相談会/共催:静岡県東部保健所
11.21	沖縄	ハイキング
11.27	福島	設立総会、講演会
12. 5	福井	ぴあカウンセリング交流会



年月日	支部	内 容
2011. 1. 9	沖縄	交流会（琉球大学病院院内親の会）
2. 26	東海	子どもを亡くした親の会（虹の会）、支部連絡会
2. 26	関西	近畿小児がん研究会公開シンポジウム 「がんの子ども・家族の心と将来」、「小児がん患者の晩期障害を考える」
2. 26	静岡	講演会「小児がんの子どもと家族の思い－家族支援の大切さ・QOLを高めるために－」
2. 26	富山	金沢医科大学市民公開講座「小児がん治療の進歩」 講演会 主催：金沢医科大学大学院医学研究科
2. 27	愛媛	総会
3. 5	東海	講演会、相談会

(2) イベント・募金活動等

年月日	支部	内 容
2010. 4. 25	宮城	第2回小児がん征圧「天使の泉」チャリティーワンコインコンサート
5. 3	宮城	「風のかたち」上映会とあわせて、小児がん経験者によるゴールドリボン募金活動
5. 25	静岡	体験走行会（プロドライバーによる運転でサーキットを走行）富士スピードウェイ 主催：ポルシェジャパン
6. 5～13	宮城	骨髄バンク主催「いのちの輝き展」参加。ゴールドリボンへの寄付の呼びかけ。小児がん周知活動／主催：骨髄バンク
6. 26	高知	「風のかたち」上映会
6. 27	富山	チャリティーバーベキュー／主催：富山大学国際医療研究会
7. 25	富山	野球観戦／富山サンダーバース
8. 6～8	九州西	がんを知る展／主催：長崎県、長崎県医師会、アフラック
8. 25	香川	香川県内がん患者団体等ネットワーク連絡会立ち上げに参加。大人のがん団体との情報交換
9. 17	新潟	第57回日本小児保健学会患者会展示ブース
9. 23	富山	サッカー観戦／主催：富山コミュニケーションズ、富山県共同募金会
9. 25	関東	「風のかたち」上映会 講演会
10. 11	富山	あいの風リレーマラソン参加、がんの子供を守る会PR／主催：富山新聞
10. 29～31	富山	募金活動（富山大学杉谷キャンパス医学薬学祭）／富山大学学生の協力
10. 31	富山	募金活動（高岡古府小学校文化祭）
11. 6～14	宮城	「いのちの輝き展」（周知活動）／主催：骨髄バンク
11. 7	富山	募金活動（富山市立新庄小学校文化祭）
11. 20	香川	第1回香川がん患者団体ピアカウンセリング研修会参加
2011. 1. 16	愛媛	「風のかたち」上映会

(3) 院内ボランティア等

年月日	支部	内 容
2010. 4. 11	富山	バルーンショー（富山大学附属病院ロビー）
7. 11	富山	人形劇（富山大学附属病院ロビー）
9. 22	宮城	クリニックラウンジ訪問（東北大学小児科、小児外科、脳外科病棟）
10. 6	北海道	ジャグリングショー（北海道大学病院体育館）／共催：NPO法人北海道ファミリーハウス
11. 18	富山	アロマセラピー（富山大学附属病院）
12. 4	福島	クリスマス会（お話おばさんによる昔語り、人形劇）／福島医科大学小児科病棟
12. 22	香川	クリスマス会（香川小児病院カンファレンス室）

9 小児がん児童・家族への慰問活動事業

(1) クラウドクター事業

2000年から日本財団の助成を受けて始めた全国の小児病棟の慰問事業です。人気キャラクターの着ぐるみショーやうたのお兄さんコンサート、人形劇など、会場に合わせ企画し、地域や各会員や病院ボランティア、親の会の協力を受けて行っています。子どもたちからは「思い出すと楽しい気持ちになる」といった声がアンケートにも寄せられています。



■2010年度訪問先（事業開始からの累計85ヶ所）

年月日	都道府県	病院名	内容	参加人数
2010. 5.20	千葉	千葉大学医学部附属病院	うたのお兄さんのショー	92
8.10	長崎	長崎大学医学部附属病院	アンパンマンショー	50
9.25	東京	東京女子医科大学病院	人形劇	80
11. 4	島根	島根大学医学部附属病院	ボンキッキーズショー	150
11. 5	鳥取	鳥取大学医学部附属病院	ボンキッキーズショー	70
12. 1	和歌山	和歌山県立医科大学附属病院	アンパンマンショー	35
12.13	奈良	奈良県立医科大学附属病院	アンパンマンショー	60
2011. 3. 4	神奈川	昭和大学藤が丘病院	人形劇	30





(2) 図書の寄贈

2010年度も日本児童文芸家協会の協力を得て、埼玉医科大学国際医療センター、東京都立小児総合医療センター、福島県立医科大学付属病院へ児童用図書を贈呈することができました。

また、その他の寄贈図書につきましては、アフラックペアレンツハウス浅草橋、亀戸、大阪の図書コーナーにて活用されています。

(3) その他の寄贈

2010年度も様々な企業・団体・個人の方々から子どもたちのためにと玩具やグッズ、カード等を寄贈いただきました。全国の親の会、支部を通じて子どもたちに届けることができました。

10 小児がんの子どもたちの絵画展開催

一人でも多くの方に小児がんのことを知っていただくことを目的に、小児がんの子どもたちが描いた絵を募集し、絵画展を行っています。1998年度より事業を実施しており、2010年度は「第52回日本小児血液学会、第26回日本小児がん学会、第8回日本小児がん看護学会、第15回財団法人がんの子供を守る会公開シンポジウム」(2010年12月17日～19日 大阪国際会議場)において実施し、過去最多の51作品を展示することができました。また3日間で1427名の方が来場され、過去最多となりました。来場者からのアンケートでは、「毎年楽しみにしています。今後も是非続けて欲しい」「ひとり一人の絵とコメントを読んでいると、子どもの姿、ご両親の思いが伝わり、涙が出てしまいました」「生き生きとした色使いや人柄を表したような印象の絵が多く、どの絵も素晴らしかったです」等々、多くの感想が寄せられ、啓発活動としての大きな成果を得ることができました。



財団法人JKAの助成を受けて実施しました





11 ソーシャルワーカーの研修事業

全国のがん医療に携わるソーシャルワーカーの研修のため、オンコロジーソーシャルワーク研究会の事務局を担当し、自主企画を第59回日本医療社会事業全国大会・第31回日本医療社会事業学会（長野県）内で企画しました。当日は100名以上の参加があり、がん医療のソーシャルワークをソーシャルワーカー同士で共有し確認しあえる機会を提供しました。

12 その他の事業

(1) スマートムンストーンキャンプへの協力

スマートムンストーンキャンプは、1998年に始められた小児がんの告知を受けた子どもたちのサマーキャンプです。これまで神奈川県三浦海岸や山梨県清里、熊本県南阿蘇、北海道滝川市、岐阜県白川郷などで行われてきました。

13回目となる2010年度のキャンプは7月23日～25日まで高知県香南市で行われ、事務局として準備段階から運営に協力するとともに、近藤博子理事、ソーシャルワーカー1名がキャンプに参加しました。

(2) そらぶちキッズキャンプへの協力

「そらぶちキッズキャンプ」は、病気とたたかう子どもたちのため特別に配慮された常設のキャンプ場を北海道の豊かな自然の中に作るための活動をしています。2004年から、実現に向け夏と冬にプレキャンプを実施しています。

当会では、夏のプレキャンプ（2010年8月22日～25日）、冬のプレキャンプ（2011年2月18日～21日）で、参加者募集に協力しました。

(3) 第15回財団法人がんと子供を守る会公開シンポジウム

第52回日本小児血液学会・第26回日本小児がん学会・第8回日本小児がん看護学会の協力を得て、大阪国際会議場（大阪府）において、第15回がんと子供を守る会公開シンポジウムを開催いたしました。

13 広報・募金活動

(1) ブース出展

医療・福祉関係の学会等の会場にて、パネル展示や発行資料の紹介、広報物の配布等により、当会への認知向上や理解を深めてもらう取り組みを実施しました。



(2) ゴールドリボングッズによる啓発活動

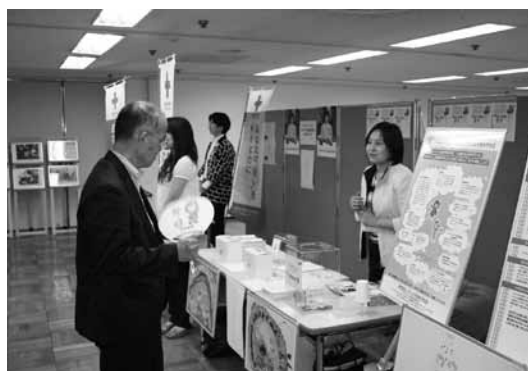
小児がんの世界共通のシンボルマークであるゴールドリボンのアクセサリなどを作成し、小児がんの啓発を兼ね、ゴールドリボン基金へご寄付された方へ贈呈しました。(2010年度計：ピンバッジ10,921個、ストラップ9,464個、スワロフスキーつきピンバッジ599個)





(3) チャリティーイベント等での募金ブース出展

小児がんの子どもたちへの支援を目的にした各種チャリティーイベント会場にて、来場された一般の方々に、小児がんの現状や当会の活動等への周知活動や募金活動を実施しました。



(4) 常設募金箱の設置

店舗のレジ横などに設置できるオリジナル募金箱を作成し、支援者の方々のご協力のもと、広く募金活動を展開することができました。



庶務事項

(1) 理事会・評議員会の開催

■理事会

年月日	議案
2010. 6.10	1 2009年度事業報告及び収支計算書（案）の件 2 がんの子供を守る会諸規定の改正の件
9.17	1 公益認定への移行申請に向けた評議員の選定の件 2 公益認定法人移行認定申請に係る業務の業者委託の件 3 移行認定を受ける上での問題点の件 4 2011年度治療研究助成の件 5 指定寄付金による治療研究助成の件 6 小児がん経験者自立支援助成事業の件
11. 5	1 新公益法人制度への移行について 2 2010年度上期の収支状況の件 3 第53回日本小児血液・がん学会開催の指定寄付の件 4 福島支部設立の件
12.19	1 新公益法人制度への移行について 2 がんの子供を守る会就業規則の一部改正の件 3 がんの子供を守る会旅費規程の全面改正の件
2011. 1.26	1 新公益法人制度への移行の件 2 がんの子供を守る会旅費規程の全面改正および細則の制定の件 3 がんの子供を守る会総会の件
2.25	1 がんの子供を守る会旅費規程の全面改正および細則の制定の件 2 がんの子供を守る会常勤職員退職手当支給規則の制定の件 3 がんの子供を守る会総会の件 4 小児がん経験者ICCCPO派遣の件 5 公益財団法人移行の件 6 小児がん対策に関する意見交換会報告

※場所はすべてアフラックペアレンツハウス浅草橋

■評議員会

年月日	議案
2010.6.13	1 2009年度事業報告及び収支計算書（案）の件 〈砂防会館〉

(2) 2010年度定期総会開催

2010年6月13日、砂防会館にて定期総会を開催しました。

総会	1 2009年度事業報告及び会計報告 2 2010年度事業計画及び予算の説明
講演会	『小児白血病診療に携わった30年をふりかえって』 土田 昌宏 先生（茨城県立こども病院） 『小児核医学診断および内照射治療』 内山 眞幸 先生（東京慈恵会医科大学附属病院 放射線医学講座）
分科会	1 個別相談会 2 晩期合併症 3 保育・教育 4 子どもを亡くした両親のために 5 小児がん経験者 6 きょうだい 7 ボランティア・社会活動



学会・研究会参加

■演題発表

年月日	学会・研究会名称	発表内容
2010. 9. 4	日本社会薬学会第29年会シンポジウム 「医療とアート」 〈日本大学薬学部キャンパス〉	「小児がんの子どもたち～心をつなぐ絵画展～」
10. 2	第10回中部トータルケア研究会 〈名古屋医療センター〉	「小児がん経験者の自立を考える」
12.17～19	第52回日本小児血液学会・第26回日本小児がん学会・第8回日本小児がん看護学会・第15回財団法人がんの子供を守る会公開シンポジウム 〈大阪国際会議場〉	【ポスターセッション】 「よりよい総合支援センターを目指して～アフラックペアレンツハウス大阪の取り組みと今後の課題～」 【合同シンポジウム「子どものワクワクを作る療養環境」】 「子どものワクワクを家族から」
2011. 2.11	厚生労働省科学研究真部班 公開シンポジウム 〈聖路加看護大学〉	「小児がん経験者の自立のために」
2.12	病弱児教育研究会 〈アフラックペアレンツハウス浅草橋〉	「小児がん患児家族の生活支援について」
2.26	第33回近畿小児がん研究会 公開シンポジウム 〈兵庫県私学会館〉	「小児がんの子どもたちの未来のために」

■参加

年月日	学会・研究会名称
2010. 6.18	セミナー「脳腫瘍2010」 〈大阪リッツカールトン〉
6.19～25	International Symposium of Pediatric Neuro-Oncology 〈ウィーン（オーストリア）〉
7.10	第2回東海脳腫瘍セミナー 〈名古屋大学病院〉
8.29	第1回小児在宅緩和医療研究会 〈聖路加看護大学講堂〉
9. 4	KIGS/KIMS JAPAN NATIONAL CONFERENCE 〈大手町サンケイプラザ〉
10. 3	第15回脳腫瘍外科学会市民公開講座 〈大阪市立中央公会堂〉
10.21～24	SIOP及びICCCPO年次総会 〈ボストン（米国）〉
10.28～30	第48回癌治療学会 〈京都国際会議場〉
11. 6	関東脳腫瘍研究会 〈御殿山ヒルズ〉
11.28～30	第28回日本脳腫瘍学会 〈軽井沢プリンスホテル〉

埼玉医科大学国際医療センター カンファレンス

小児がん患児家族支援のため、埼玉医科大学国際医療センター包括的がんセンターと契約し、がん相談支援センターのソーシャルワーカーと協働を行っています。本年はカンファレンス1回の参加を含め、小児がん患児家族の支援を行いました。

授業などの講師

小児がん及び当会の活動についての講演など、当会会員や関係者の協力を得ながら実施しました。

年月日	対象者	参加者
2010. 6. 5	NPO法人全国骨髄バンク推進連絡協議会設立20周年記念事業 「新しい時代へ いま有明から ～思いをつなぐ いのちをつなぐ～」	約100名
6.29	プラザスタイルカンパニー青山本社社員	10名
7. 8	京都丹後保健所主催「01の会」	6名
7.12	大正大学人間学部アーバン福祉学科3年次	12名
7.22	高知大学医学部	50名
8.10	都立墨東特別支援学校教員	8名
8.24	大阪弁護士会「医療における子どもの人権」読書会	10名
10.27	一ノ宮ライオンズクラブ	約50名
11. 2	富士火災第5回関西みん健倶楽部ワイド	約80名
11. 6	国立第一中学校	40名
2011. 1. 8	難病のこども支援全国ネットワーク主催の病弱教育セミナー2011	40名
1.11	エーザイ株式会社鹿島工場職員	140名
1.12	大正大学人間学部アーバン福祉学科2年次	20名
2.19	沼津市社会福祉協議会主催「ボランティアと福祉入門講座」	30名
3. 7	都立小児総合医療センターの医療者	30名
3. 8	山手学院 中学1年生	250名

専門誌等への投稿

誌名	論文名など
小児科臨床 64(1),43-51, 2011-01 (日本小児医事出版社)	「小児がん-社会資源を自分たちの手で創って」 (ミニ特集 患者支援のための社会資源) 武山 ゆかり
小児看護 Vol.34.No.3, 270-276, 2011-03 (へるす出版)	「難病の子どもと家族の総合支援センター アフラックペアレンツハウス」 (カラーグラフ) 樋口 明子
小児看護 Vol.34.No.3, 322-328, 2011-03 (へるす出版)	「ソーシャルワーカーによる10代患者の家族への支援」 (End-of-Lifeにある10代患者とその家族への支援方法) 樋口 明子
子どもの健康科学 第11巻第1号 (日本子ども健康科学会)	「病気の子どもの心を考える-小児がんのトータルケア-」 野々村 かおり



研究協力

研究名称	協力内容
「初発の頭蓋内原発胚細胞腫に対する放射線・化学療法第Ⅱ層臨床試験」 松谷 雅生（埼玉医科大学国際医療センター 脳・脊髄腫瘍科）	実行委員会委員
「成育医療的視点での家族支援に向けた包括的調査による小児脳腫瘍患児・家族の実態解明」 上別府 圭子（東京大学大学院医学系研究科家族看護学分野）	共同研究者
「Pediatric Quality of Life Inventory (PedsQL) 基準範囲の作成 ～頭蓋内胚細胞腫患者の治療中・治療後のQOL～」 上別府 圭子（東京大学大学院医学系研究科家族看護学分野）	共同研究者
「小児がん経験者の自立支援の方策の探求」 （厚生労働科学研究費補助金 疾病・障害対策研究分野 がん臨床研究「働き盛りや子育て世代のがん患者やがん経験者、小児がんの患者を持つ家族の支援の在り方についての研究」真部班） 小澤 美和（聖路加国際病院小児科）	共同研究者
「小児がん拠点病院の基準についての考察」 （厚生労働科学研究費補助金 疾病・障害対策研究分野 がん臨床研究「働き盛りや子育て世代のがん患者やがん経験者、小児がんの患者を持つ家族の支援の在り方についての研究」真部班） 小田 慈（岡山大学医学部付属病院小児科）	研究協力者
「小児がん長期寛解者の各ライフステージ別の心理社会的問題の解明と、その解決に向けたメンタルケアシステムのあり方に関する研究」 （厚生労働科学研究費補助金 疾病・障害対策研究分野 がん臨床研究「働き盛りや子育て世代のがん患者やがん経験者、小児がんの患者を持つ家族の支援の在り方についての研究」真部班） 鈴木 伸一（早稲田大学大学院人間科学研究科）	研究協力者
「遺伝子治療臨床研究会」 大橋 十也（国立成育医療研究センター）	委員
「終末期医療のあり方に関する懇談会」 町野 朔（上智大学法学研究科）	委員

調査研究委託

2010年度の当会会員を対象にした調査研究の申請は4件あり、調査研究委員会にて審議ののち2件について被調査者を紹介しました。

研究名称	協力内容
「小児がん経験者の自立支援の方策の探求」 （厚生労働科学研究費補助金 疾病・障害対策研究分野 がん臨床研究「働き盛りや子育て世代のがん患者やがん経験者、小児がんの患者を持つ家族の支援の在り方についての研究」真部班） 小澤 美和（聖路加国際病院小児科）	小児がん経験者の自立支援研究対象者2名に対して、当会会員のリクルート及び当会機関紙及びホームページ上での募集記事掲載
「がん患者意識調査2010年」 NPO法人日本医療政策機構 市民医療協議会	当会各支部幹事2名に調査用紙を送付し、任意に協力を依頼

社会活動

年月日	内 容
2010. 7.10	■意見陳述 難病のこども支援ネットワーク主催による、厚生労働省母子保健課担当者との情報交換の場において、小児がんに関する小児慢性特定疾患治療研究事業制度について、重症患者認定基準の見直し及びキャリアオーバー（20歳以降の問題）に関しての意見を述べた。
11～12	■アンケート調査 小児慢性特定疾患治療研究事業の制度、および医師意見書について、小児がん学会の協力のもと、同学会に所属する医師1,032名に対してアンケート調査を依頼し、321名の回答を得た。
2011. 2.11 ～13	■小児がん対策に関する意見交換会 TKP東京駅日本橋ビジネスセンターにて、当会支部幹事33名および職員理事により、自らの体験や地域の現状等、現行の小児がん対策に関する意見交換を行い、小児がん対策に関する患児家族からの意見書として、厚生労働省がん対策推進協議会、小児がん専門委員会の檜山英三委員長に提出した。

取材

各メディアから小児がんに関することや当会についての取材を受けるとともに、会員等に対する取材時にも当会ソーシャルワーカーが同席しました。

招待

各種イベント主催者等から小児がんの子どもと家族に対する招待をうけ、会員等へご案内しました。

財団法人がんとの子供を守る会 2010年度事業報告書
2010年4月1日～2011年3月31日

2011年6月10日 発行

財団法人 がんとの子供を守る会

〒111-0053 東京都台東区浅草橋1-3-12
TEL 03-5825-6311(代表)



財団法人 がんの子供を守る会
Children's Cancer Association of Japan

〒111-0053 東京都台東区浅草橋1-3-12

電話:03-5825-6311(代表)

<http://www.ccaj-found.or.jp/>

がんの子供を守る会

検 索

